

### (3) 中国三農問題解決と都市化

中国社会科学院城市发展与环境研究中心 牛 凤 瑞

#### 一、都市化は中国現代化過程で避けられない傾向である。

工業化と都市化は中国現代化の二大推進力であり、中国現代化の二大旗印でもある。工業化は都市化の原動力で、都市化は工業化のキャリアーである。

都市化の深刻の遅れが工業化のコストを上げるだけではなく、国内市場の需要拡大と第三次産業の発展を抑制することになる。従って、都市化戦略は中国が経済と社会、人口と資源環境の持続発展を実施するための必然的な選択である。

#### 二、農民を豊かにするには農民を減らさなければならない

中国三農問題の最大の難関は、いかに農民の収入を増やせるかである。それに対して3つの考え方がある。農業生産構造の調整、非農産業の発展、農民負担の軽減である。長い目で見ると、農民の収入を増やすには、農産物の増加、農民負担の軽減だけではなく、農民数を減少させることが最も注目すべきところである。農民数を減少させることが、農民収入の増加に対しては、長期にわたって総合的な意義をもっている。

#### 三、都市化の進展は農民を減らせる基本的な道である

農村人口流動を制限する戸籍制度と農業労働効率の上昇による兼業化進展の結果、多くの農村人口が農村に引き留められることになる。それは社会労働力資源の浪費でもあるし、農民が豊かになることの障害でもある。そのことは農村現代化建設のコストを上げているだけではなく、社会経済要素の合理的な空間配置も妨げることにもなる。農民数を減少させる基本的な道は農民が都市に入り、市民に転化することにある。

#### 四、農民の大量な“進城”が農業発展を脅かすことはない

第一、農村労働力が多く余っているため、都市に入るのはその余剰部分で、農業労働力の供給総数に与える影響はない。第二、科学技術の進歩によって、農業生産の強度が下げられ、女性・老人にも担当できるようになる。第三、一家族6-8中国エーカーの耕地経営に対して、それを青壮年の出稼ぎ者を除く他の家族成員によって賄うことが家族内の合理的な分業であり、社会労働資源全体においての合理的な配置でもある。第四、中国の領土の面積は広く、局地的な自然災害、農産品市場の供給関係による変動があっても、国家全体の食糧の安定的供給には影響がないと思われる。

## 五、中国で農民の“進城”を制限する根拠はもう存在しない

改革開放以後、中国の農業は大きく発展し、食糧供給が都市発展の物質的な制約ではなくなり、引き続き以前の農民“進城”を制限する政策を実施することは時代の流れに相応せず、大量の人口が農村に引き留められるというのは、労働力資源の浪費である。

都市のゲートを開け、農民“進城”の制限を取り除くと、都市人口の爆発をもたらす都市安全を脅かすことになると言われてきたが、そのことについては、石家荘などの大都市の戸籍開放で既に穏やかな答えが出ている。

## 六、中国農村発展の遅れの原因は都市発展の遅れにある

今中国における都市と農村の間の巨大な格差は、農村が都市の原始的蓄積を支える時間が長すぎ負担が多すぎたことや、長期にわたる都市と農村の二重構造などに関連するが、最も基本的な原因は中国都市発展の遅れにあり、都市の農村人口の吸引、都市の農村発展を促進する力が弱いためだと考えられる。

農村の発展は都市の発展なくしてはならない。都市が十分な発展を遂げることが農村発展の前提条件となっている。都市と農村の間の格差を縮小する方法は、都市の速やかな発展によって農村のそれを促進することであり、その逆のやり方ではない。

## 七、中国都市の発展は農民なくしてはならない

第一、2001年に中国の都市における労働者は約2.4億人で、その中で農民が約40%を占めており、都市の運営と発展は農民なくしてはならない。第二、都市に入る農民が引き受けた労働のほとんどは市民が従事したくない仕事であり、市民の就業機会と正面から衝突する可能性は少ない。第三、政府は市民だけの政府ではなく、人民全体の政府であり、農民の就業機会を創造することも政府の責任である。第四、農民が都市に入ることを制限することは人口の集積を制限することであり、第三次産業の発展を抑制することでもある。第五、都市に入る農民自身が大きな需要を創造している。それは内需不足の解消、雇用の増加に対して現実的な意義をもっている。

## 八、都市化の加速する時期に農村要素が都市に集まる事の必然性・合理性

未来の十数年間は中国にとって、集積を主な傾向とする都市化が加速する時期である。この時期においては、農村要素（農村労働力、土地資金などの要素）が都市に大量に動き出すことが必然的な現象である。この流動は短期的には、農村の表層に対してマイナスの影響を与えるが、長期的、実質的には、プラスの影響をもたらすと考えられる。一定の時期と一定の限度において、農村要素が都市に集積することは社会要素の全体的な配置を整合的にし、社会生産力

の発展を加速させ、現代化進展のコストを下げることになる。しかし、ここで強調しなければならないのは、農村要素の都市への流動は主に市場の力による結果であり、行政的な干渉はむしろ逆な効果をもたらすということである。

#### 九、国家の農村援助は方向を絞る必要がある

家庭を中心とする中国農業経営の方式と市場経済体制の要求に応じて、効率を高めることに着目して、国家の農村に対する支援は“有所不備、而有所依”（抑えることがあるからこそ、出来ることがある）の理念を元に、以下のいくつかの農村公共施設の供給領域に絞る必要がある。①農村教育；②農業科学技術進歩と農産品市場の情報ネットワーク構築；③農村医療事業、特に公共衛生の発展；④農村社会保障制度の創設；⑤農村公共基礎施設の建設；⑥農村小額貸付業務の展開。

#### 十、“進城”農民への“市民待遇”の付与は都郷一体的発展の基本である。

労働力の自由な流動は、市場が資源を合理的に配置することの前提条件であり、農民の進城を制限することは労働力市場の改善とも矛盾する。都市には人材と金持ちだけではなく普通の労働力も必要とされるのであって、このことは協業システムによって決定されているのである。農村戸籍のことで、農民は市民と同じ権益を行使することが出来ない。これは社会の公平や公正に反しており、社会主義制度の本質にも違反することである。家庭請負制度が農民に生存の権利を与えたというのなら、都市と農村を二重に分けて管理する戸籍システムの解消は、農民に都市に入って仕事、居住、生活の選択権を与え、農民に発展する権利を与えることになる。